

1. 使用状況

9月23日時点	
投与者数(見込み)	約32,000人
登録医療機関数	約4,000施設
うち納品実績のある医療機関数	約2,000施設

2. モデル的な取組等の進捗状況

- 緊急事態宣言地域・まん延防止等重点措置地域を中心に、都道府県の選定した医療機関に一定数を事前配布済み。
※ 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置地域以外からの地域についても意向に応じて事前配布。(計46都道府県)
- 医療スタッフの体制を確保した宿泊療養施設(臨時の医療施設化等)においても投与を可能とし、北海道、埼玉県、東京都、茨城県、京都府、大阪府、愛媛県、福岡県、長崎県、宮崎県、沖縄県で開始済み。(現時点で厚労省で把握しているもの)
- 投与後の観察体制の確保等の一定の要件を満たした医療機関による外来投与などについても取組を開始(8/25~)。
- 外来で投与した場合の診療報酬を加算(9/7)
- 東京都・大阪府の外来での投与の取組事例等を各自治体に周知(9/10)
- 往診での投与を可能とし、大阪府(9/17)、東京都(9/18)で開始済み。他の実施を希望する都道府県や医療機関においても、速やかな実施に向けて取り組む。

成分名	カシリビマブ/イムデビマブ (販売名:ロナプリーブ点滴静注)	申請企業	中外製薬
種別	中和抗体薬	投与方法	単回点滴静注
対象患者	重症化リスク因子を有する軽症から中等症Ⅰの患者(酸素投与を要する患者を除く。)		

- 6月29日薬事承認申請。7月19日薬事・食品衛生審議会、同日特例承認。
- 米国FDAのEUA(緊急使用許可)に係るファクトシートによると、
 - ・投与中は患者をモニターするとともに、投与完了後少なくとも1時間は観察することとされている
 - ・アナフィラキシーや急性輸注反応(infusion reaction)を含む重篤な過敏症が、投与中から投与後24時間後にかけて観察されている